

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
[1] 学習指導の充実 向上と進路指導 の充実	① 指導内容を精選し、基礎基本の確実な定着を図るために、指導方法の工夫改善を徹底する。 ② 学校行事等を精選し、授業時数の確保に努める。 ③ ICTの活用・「主体的・対話的で深い学び」をめざすことで、よく分かる授業展開を図り、学習意欲を高め、確かな学力の向上に努める。 ④ 自らの課題を発見する力をつけ、主体的に取り組み、自ら考え行動し、解決できる資質や能力を育成する。 ⑤ 進路相談を充実し、個々の生徒に応じた支援をするとともに、集団の一員としての社会適応力や職業観を培い、生徒一人一人の進路実現を図る。 ⑥ 学校図書室が生徒の利用に供することによって、学校の教育課程の展	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○新型コロナの状況によるが、必要な行事は行いつつ授業時数の確保を図る。</p> <p>○GIGAスクールの生徒用タブレットが使いこなせて授業ができるようにしていきたい。さらに、中高一貫教育や高大接続に関する校内外の研修の機会を増やし奨励していきたい。</p> <p>○感染防止対策を取りながら、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう工夫された授業を展開することで、さらなる授業力の向上及び授業満足度の向上を図りたい。</p> <p>就職内定率も大事だが、その後の離職率にも注目する必要がある。 折角就職できたのに、安易に離職しないような指導をしてもらえれば、尚良いかと思う。</p> <p>共通テストを始め、新しい入試制度への対応が十分にできたか検証が必要ではないか。</p> <p>商業科の現状や将来について、固有の課題や問題点がないのか、検討してほしい。</p>	
		① 教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。	・「教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるか」の質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が86%であった。	A		(評定) B
		② 授業時数の確保率を83%以上にする。	・年度末において、商業科84.6%、普通科83.7%の見込みである。	A		(所見) ・見込みであるが、目標を達成できた。 ・授業に対する満足度は約28%が「満足」、約58%が「おおよそ満足」であった。ほぼ目標は達成できている。
		③ 授業に対して満足しているかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。	・授業に対する満足度「ほぼ満足」以上は86%であった。	A		
		④ 計画的な学習ができているか、意欲を持って授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が共に80%以上とする。	・計画的な学習ができているかは58%、意欲を持って授業に取り組んでいるかは85%が「おおよそ当てはまる」以上であった。	B		・授業には意欲的に取り組んでいるが、約4割の生徒が計画的な学習できていない。
		⑤-1 進路検討会を年間3回以上行う。	・進路検討会を年間3回行い、生徒個々の進路について検討を行うことができた。	B		・校外模試成績の分析や、校内実施の生活実態調査を通して生徒の学習状態を数値で表し全職員で共有することで、生徒の実態を把握し、面談等を通して生徒の進路指導に役立てることができた。
		⑤-2 個別面談を各学期1回以上実施する。	・三者面談を含め、各学期1～2回実施した。	B		
		⑤-3 国公立大学への合格者100名を目指す。	・総合型選抜、学校推薦型選抜I（共通テストを課す・課さない）を含め、3月末で、国公立大学合格者は104名である。	A		
⑤-4 商業科において、全商1級3種目以上取得者40%以上、就職内定率100%とする。	・全商1級3種目以上取得者15.3%、就職内定率100%であった。	B				
⑥ 図書室利用活性化の為に、学期に2回、企画展などの活動を行う。	・ほぼ月1回のペースで企画展を開催し、生徒の参加も活発であった。	A	・図書委員が活発に活動に参加し、校外の行事にも積極的に参加した。			

開に寄与し、生徒の健全な教養を育成する。

活動計画	活動計画の実施状況
①-1 「学力向上委員会」を年間2回以上実施し、学力向上のための方策を検討する。	・「学力向上委員会」を1学期と3学期に各1回実施した。2学期は都合でできなかった。
①-2 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。	・相互授業参観は1学期と2学期に実施したが、授業研究会は新型コロナの影響もあり、できなかった。ギガスクールの職員研修会を3学期に1回実施した。
② 学校行事の精選、各学期末考査後の日程、授業実施曜日のバランス等、年間を通じての入念な計画を立て、授業時数の確保に努める。	・行事については規模の縮小や中止を行った。授業実施曜日は、その差が最大3日であった。
③ 授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。	・授業評価アンケートは2学期当初に1回実施した。集計結果の返却が2学期末に遅れた。
①, ③, ④ 学校評価アンケートを行い、目標が達成できたか評価する。	・2学期末に学校評価アンケートを行い、目標が達成できたか評価した。
④ 放課後等に自習を行える環境を整え、主体的な学習活動ができるようにする。	・特別教室など放課後空き教室での自習は適切に行われていた。
⑤-1 進路指導検討会で模試等の分析を行い、その後の学習指導に役立てる。	・校外模試の度数分布表を中高全学年で回覧し、教科指導に役立てた。
⑤-2 担任は面談をとおして生徒が適切な進路選択ができるように指導する。	・模試データや課題テストから生徒個々の学力の特徴を分析しながら、個に応じた進路指導を行った。
⑤-3 担任と進路課が連携し、適切な進路指導を行う。	・一人一人に対応したきめ細かな進路指導が行われていると答えた生徒は、72.8%で昨年より増加した。
⑤-4 資格試験の受験を勧める。また、インターンシップ等体験的な活動を行う。	・資格試験は部活動公式試合で受験できない者以外は100%受験した。インターンシップは中止となったが、阿南商工会議所主催の体験的な活動を実施した。
⑥-1 図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料	・本年度蔵書を約250冊追加した。SDGs学習の資

た。 ;

・新型コロナの影響もあり、行事が減り、授業時数は増加した。

○新型コロナの状況にもよるが、引き続き授業時数の確保に努める。また、曜日や午前午後の授業時数のバランスも取る。

SDGsに興味・関心を持ってもらい、それに関連した、より発展的な授業に

	を収集,整理する。	料充実が図れた。	繋げてもらいたい。		
<p>[2] 中高一貫教育の 充実</p> <p>① 中高教職員のより緊密な連携のもとに、よりよいシラバスの作成や指導方法の工夫改善に取り組み、6年間の計画的・継続的な指導を行うなか、生徒の個性や能力を伸長させる。</p>	<p>①-1 中高一貫教育研究委員会を年間2回以上実施する。</p>	<p>・中高一貫教育研究委員会を1,3学期に各1回実施した。</p>	<p>(評定) <b>B</b></p>	<p>富東の中高一貫教育を今後どのように発展させていくのか、これまでの10年を総括する必要があるのではないかと。</p> <p>○今年度は中高が連携したユネスコスクールとしての取組が十分にできなかった。徳島県教育大綱に示されたようにあらゆる教育活動をSDGsに関連づけて実施できるように行事は精選した上で効果的な取組を強化していきたい。</p> <p>○中高一貫教育のメリットを実感できるよう、特に進路の動機付けとなる機会を増やせるように、高校と中学校との生徒間及び教員間の連携を図っていきたい。</p> <p>○行事が過多にならないよう精選を進めつつ、中高一貫教育研究委員会における協議を活性化させ、具体案を実行していきたい。</p> <p>○中学校及び高校の志願者増につながるよう広報活動を強化する必要がある。</p>	
	<p>①-2 中高教職員による相互授業参観や中高合同研修会を年2回以上実施する。</p>	<p>・中高教職員による相互授業参観を1,2学期に各1回、中高合同研修会(情報セキュリティ研修会・ギガスクール構想研修会)をそれぞれ年1回実施した。</p>			<p>(所見) ・新型コロナウイルス感染防止と授業時数確保が最優先であったので、さまざまな学校行事や講演会、職員研修会は精選して実施することになり、各活動はこれまでよりも縮小された。</p>
	<p>①-3 複数の科目において中高教職員による授業交流を実施する。</p>	<p>・英語と数学において例年通り中高教職員による授業交流を実施した。それ以外の科目では授業交流は進まなかった。</p>			
	<p>①-4 中高合同教科会を各学期1回以上行う。</p>	<p>・中高合同教科会は1学期だけしかできなかった。</p>			
	<p>①-5 ESD(持続可能な開発のための教育)活動について連携し、合同の講演会や発表を年1回以上行う。</p>	<p>・ESD講演会を高校1年生対象に実施した。中2と高2による合同発表会を3学期に行った。</p>			
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
	<p>①-1 各学期の中高一貫教育研究委員会までに有効で実施可能な案を検討し、委員会では具体的な検討ができるようにする。</p>	<p>・中高合同教科会が1学期しかできなかった。各教科で実施可能な案について検討する時間十分に取れなかった。</p>			
	<p>①-2 中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を年2回以上行う。</p>	<p>・中高相互の授業見学は年2回実施した。研究授業及び研究協議は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。</p>			
	<p>①-3 数学と英語を中心に中学校の授業の一部に高校教員が入ることで、併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。</p>	<p>・例年通り、数学と英語は中学校の授業の一部に高校教員が入った授業を行った。それ以外に、併設型中高一貫教育のメリットを活かした新たな指導法や指導体制を始めることはできなかった。</p>			
	<p>①-4 各学期初めの職員会議後に中高合同教科会を行う。</p>	<p>・中高合同教科会が1学期しかできなかった。</p>			

		<p>①-5 ESD 活動（ユネスコスクール の取り組み）を計画的に推 進する。</p>	<p>・公開中止となったので文化 祭の際の「ESD 展」はでき なかつた。「服のチカラプ ロジェクト」で子供服を集 める活動も大幅に縮小し た。JICA への生徒の作文 応募や国際交流活動もでき なかつた。</p>			
<p>[3] 人権尊重の意識 ・態度を育む「心 の教育」の推進</p>	<p>①「徳島県人権教育 推進方針」に基づ き、豊かな人間性 を身につけさせ、 さまざまな人権問 題の解決のため、 主体的に取り組む 能力・実践力の育 成に努める。</p> <p>②学校・家庭・地域 社会との連携を深 める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 人権 HR 学習を年 6 回（3 年 生は 5 回）実施する。</p> <p>①-2 「富東人権新聞」を年 5 回発 行、アピール放送を年 2 回 実施する。</p> <p>①-3 生徒対象の人権教育関連行 事を年 1 回以上実施する。</p> <p>①-4 生徒対象アンケートで「人 権問題について意識し、差別 をなくすために行動したい」 とする回答合計が 80%以上に なることをめざす。</p> <p>②-1 人権問題研修会を教員対象 年 3 回以上、PTA 対象年 1 回以上実施する。</p> <p>②-2 保護者・教職員対象アンケ ートで「人権を尊重するた めの様々な取組が行われて る」が 80%以上をめざす。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 人権教育ホームルーム活動 を充実させ、展開等の工夫 をする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・人権 HR 学習を年 6 回 （3 年生は 5 回）実施 することができた。 B</p> <p>・「富東人権新聞」を年 5 回発行、アピール放 送を年 2 回実施するこ とができた。 B</p> <p>・各学年ごとで企画し、 2 学期に 1 回ずつ講師 を招いての講演を実施 することができた。事後 の作文やアンケートで 有意義であったとい う意見が多数見られ た。 B</p> <p>・「行動したい」という 積極的な意見は 27%、 「学習することで意識 をするようになった」 という前向きな意見が 67%であった。入学当 初に比べ、積極的な意 見は 8%増えた。 A</p> <p>・教職員対象に 3 回、講 演会等の研修会を実 施することができた。 PTA 対象の講演会 は、公開授業の中止 に伴い実施するこ とができなかつた。 B</p> <p>・「おおよそ当てはまる」 以上の回答が教職員 91%、保護者 92%、 生徒 94%であった。 A</p> <p>・指導案を基に各学年で事前 検討会を行い、共通理解を 図って授業を実施するこ とができた。コロナ禍での情</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>・人権 HR 活動は、 各学年で指導案作 成、検討会を学期 ごとに行い、共通 理解を図った上で 実施することがで きた。内容に関し ても、生徒の実態 を踏まえ、話し合 うことができた。</p> <p>・年度当初のアピ ール放送では、生 徒会長からコロナ 差別について正し い判断ができるよ うに呼びかけをし 、人権学習の大切 さをアピールする ことができた。</p> <p>・高校 3 年間の学 習で、人権学習の 意義を前向きにと らえる生徒が 99% を占めた。積極的 に行動したいとい う生徒の割合が増 えたことは、担任 をはじめとする教 職員の取り組みの 成果があったと考 える。</p> <p>・教職員に対しては 新しい分野の人権 問題についても知 識・理解を深めら れるような内容を 検討したい。</p>	<p>コロナ禍で生活環境が大 きく変化した家庭も少なく ないと思う。 生徒や保護者の不安や悩 み適切に対応し、寄り添っ てあげてほしい。</p>	<p>○継続的な啓発・学習が 重要である。法の制定 やコロナ禍による社会 の動きも考慮しなが ら、生徒・保護者・教 職員が意識を高められ るよう、年間行事の時 期、内容について課内 で検討し、充実したも のにできるように努め たい。</p> <p>○月 1 回の富東人権の日 で、人権問題について 考える機会を呼びかけ たい。また、「富東人 権新聞」やアピール放 送の内容についても、 担当教員と生徒で内容 を吟味していきたい。</p> <p>○身近な問題として考え られる生徒が増えるた めには、教職員の人権 感覚を高めていくこと が必要である。各学年 での人権 HR 打ち合わ せや教職員研修の場を 充実したものにでき るように努めたい。また、 ホープサークル部の活 動の充実をさらに図 り、中学生との活動も 広げていきたい。</p>

		<p>報リテラシーについても考える時間を設定できた。</p> <p>①-2 月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。</p> <p>①-3 講演会等の企画の他、ポスター・標語の作品展示を通して啓発する。</p> <p>①-4 卒業時にアンケートを実施し、入学時との意識の変化について考察する。</p> <p>②-1 講師を招いての講演会を企画したり、識字学級への参加を呼びかけ、教職員の人権意識を高める。</p> <p>②-2 講師を招いての講演会等の企画をし、保護者への参加を呼びかける。</p> <p>②-2 「富東人権新聞」を家庭に持ち帰り、保護者にも読んでもらい、人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。</p>	<p>・人権教育推進委員が教員と話し合いながら執筆した人権新聞を発行したり、アピール放送をすることができた。</p> <p>・富東祭での人権啓発ポスター展や富東人権週間での作品展示を実施することができた。</p> <p>・実施したアンケートを基に教職員研修会を行い、今後の取り組みについて検討することができた。</p> <p>・年度当初に新入生対象の意識調査の結果を考察したり、各学年ごとでの講演会への参加を呼びかけたりして人権意識の高揚を図ることができた。識字学級は今年度開講されなかった。</p> <p>・今年度は、感染防止の観点から、保護者の参加を呼びかけることはできなかった。</p> <p>・毎回の人権新聞発行時に、各家庭で話し合う機会を持つことを担任を通じて呼びかけてもらった。</p>	<p>・保護者には人権新聞を通じての啓発はできたが、例年行ってきた講演等を実施することができなかつた。来年度も同じ状況が続くことが予想されるため、内容や実施方法を工夫する必要がある。</p>	
--	--	---	---	---	--

<p>[4] 豊かな心を育む生徒指導の推進</p>	<p>①挨拶、マナー等の基本的生活習慣を身につけさせるよう努める。</p> <p>②いじめや体罰を防止し、速やかに対応する。</p> <p>③行動・学習面で教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立し、特別支援</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>				
		<p>①-1 年間遅刻回数 20 回以上の生徒を 0 人にする。登校日の遅刻者 0 人の日の割合を 20 % 以上とする。</p>	<p>・遅刻回数 20 回以上は 3 人（転学者含む）、遅刻者 0 人の日の割合は 12.1 %であった。</p>	B	(評定)	B	○遅刻をしないことや身だしなみを整えることは、当たり前のこととして自然にできるよう声かけを続け、学校全体での取り組みとしたい。
		<p>①-2 身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合を 90 %以上にする。</p>	<p>・自己評価が当てはまる生徒は昨年度より増加したが、87.8 %と目標には届かなかった。</p>	B	(所見)	<p>・多くの生徒は基本的な生活習慣が身につけており、身だしなみについてもおおむね良好であるが、数値目標には届かなかった。</p>	○何事にも高校生として「自己選択」「自己決定」「自己実現」ができるよう、担任を通して保護者との連携を図っていききたい。
		<p>② いじめと体罰に関するアンケートを各学期 1 回実施する。</p>	<p>・いじめと体罰に関するアンケートを各学期 1 回実施した。</p>	A		<p>アンケートだけでなく、面談・カウンセリング的なものを実施することも大切だと思う。</p> <p>また、「いじめ」という言葉で曖昧に捉えるのではなく、暴行罪・脅迫罪・傷害罪等の具体的な刑法上の罪名で認識を改めるのも良いかと思う。</p>	○校内の相談活動を身近なもの感じてもらえるように、文書だけでなくホームページや校内の掲示板等を活用した周知活動に取り組んで
<p>③ 校内の支援体制について、生徒・保護者に年 3 回以上周知し、早期の対応につなげる。</p>	<p>・生徒、保護者に向けてスクールカウンセリングのお知らせや保健だよりを通して年 3 回の周知を行った。</p>	B		<p>・いじめや体罰は重大な人権侵害だと捉え、今後もアンケート調査等を通して早期発見・対処を継続する。</p>			

	<p>教育を推進する。</p> <p>④ 全教職員の共通理解を図り、家庭・地域・関係諸機関との連携に努める。</p>	<p>④ 教職員研修を年間1回以上実施する。</p>	<p>・人権教育課と合同で10月に実施した生徒の講演会を教職員研修と兼ねて実施した。</p> <p style="text-align: right;">B</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症による長期の臨時休校や学校行事の規模縮小・中止に伴う心理的な負担も大きかったが、相談件数については大きな変化はみられなかった。</p>		<p>いきたい。</p>
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
		<p>①-1 あらゆる場面や領域で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。</p>	<p>・遅刻者には、その時々での指導を重ねた。遅刻回数が多い生徒については、家庭との連絡を密にとり協力をお願いしてきた。</p>			
		<p>①-2 服装・頭髪・マナーについて集会やHRでの指導を通して自覚を高める。挨拶の励行や清掃活動への自主的な取組を促す。</p>	<p>・登校時の昇降口指導や月1回のHRでの服装指導を実施した。学年集会では、各学年の教職員全員で共通指導を行った。</p>			
		<p>② いじめ問題について集会やHRでの指導を通して啓発を行う。</p>	<p>・各学期の学年集会やHRの時間を通して啓発を行った。</p>			
		<p>③ スクールカウンセリング等、生徒・保護者が相談しやすい環境づくりに取り組む。</p>	<p>・教職員の勧めでカウンセラーに繋ぐケースがほとんどであった。</p>			
		<p>④ 外部講師による教職員研修を実施し、支援を必要とする生徒の共通理解を図る。</p>	<p>・感染症対策や行事の精選もあり実施が難しい状況であったが人権教育課と合同にすることで実施できた。</p>			
<p>[5] 特別活動の充実</p>	<p>① 部活動や生徒会活動等で自主的活動の育成を図るとともに、活力あふれる学校づくりに努める。</p> <p>② ボランティア活動をとおして、人間としてのよりよい生き方・在り方を追求する。</p> <p>③ 教員と生徒、生徒相互の温かい人間関係を育て、生き</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>(所見)</p> <p>・学校行事においては、ほとんどのイベントが中止となったが、実施できたものは生徒会中心に運営することが出来た。例年の課題である高校3年生の学校行事への積極的参加であるが、本年度は長期にわたる臨時休校の授業の取り返しや各種イベントの中止で考える時間もなかった。来年度コロナが終息</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症が終息に向かわないと計画が立たない状況である。</p>
		<p>①-1 生徒会新聞を学期に1回以上発行し、部活動・生徒会・各種委員会の活動や学校行事をPRする。</p>	<p>・学校行事・壮行会等が少ない分、全国大会出場選手の紹介等の新聞を発行した。</p> <p style="text-align: right;">B</p>			
		<p>①-2 球技大会のアンケートで満足度を82%以上にする。</p>	<p>・満足度は80.4%であった。コロナの影響で学年別での開催・種目の制限の影響が出た。</p> <p style="text-align: right;">C</p>			
		<p>②-1 学校周辺の清掃ボランティアを年2回以上実施する。</p>	<p>・HRごとの清掃奉仕やや生徒会を中心に活動が出来た。</p> <p style="text-align: right;">B</p>			
		<p>②-2 地域のボランティア活動を年6回以上実施する。</p>	<p>・JRC部・生活科学部等の部を中心として、多くのボランティア活動に取り組めた。</p> <p style="text-align: right;">A</p>			
		<p>③ 学校評価アンケートで「各種学校行事は適切で楽しいものである」に対し、「おおよそ当て</p>	<p>・満足度は83.3%であった。コロナの影響で多くの学校行事が中止</p> <p style="text-align: right;">B</p>			

	生きとした、しかも調和のとれた人間性や自主性・社会性等の伸長を図る。	はまる」以上が 80%以上になる。	・規模縮小となったが出来ることを精一杯取り組めた。	していたら、生徒の負担にならないような生徒会活動の在り方を考えていきたい。  ・このような大変な時だからこそ損得勘定だけでなく、ボランティア活動等、人のために心動かすことを多くの生徒に理解してもらいたい。学業への取り組みも大切であるが、社会貢献が必要であるという感性を磨く人の心を育てていきたい。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。	・ほとんどの学校行事が中止となり、活動の場を奪われた。		
		①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。	・多くの制限を受けたが、生徒会・部活動を中心に主体的に取り組めた。		
		② 地域の防災避難訓練、成人式等のボランティア活動を通して社会貢献の意識を高め、奉仕の精神を育成する。	・本年は、地域との合同防災避難訓練はおこなわなかった。		
③ 学校行事の精選をはかりつつ、行事がより効果的なものとなるよう改善していく。	・学校行事ほとんどが中止で精選・改善どころでなかった。				

○地域との連携をはかる機会を持つ。

[6] 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育・食育の推進	①心身の健康管理と健康増進の積極的指導を推進する。  ②高校期によりよい食習慣を身につけて生活習慣病予防や生活の質の向上を図る。  ③環境問題・防災への意識高揚と校内環境美化に努め	評価指標		総合評価	○引き続き学校あげて教育委員会や保健所、行政と情報を共有し、教職員と生徒がコロナウイルス感染症予防や対策の徹底出来るように啓発を続け、出来る限り感染者をださないように努める。  ○自他の命の大切さをコロナウイルス感染症を通して意識させて、人権尊重する気持ちをなお一層高める。  ○健康力アップ作戦を活用して食育教育の充実を図りたい。  ○部活動練習中の熱中症予防の徹底を行う。  ○防災クラブの活動を発展させ、防災意識の高揚に努める。	
		①-1 「ほけんだより」を年間7回以上発行する。年間を通して感染症や食中毒予防に努める。インフルエンザ対策啓発活動を強化、3回以上行う。	・計画通り「ほけんだより」を7回発行しました。今年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいその対策や予防啓発を毎日行った。	B		(評定)  B
		①-2 中・高校連携を密にして保健委員会の充実を図る。がん教育を継続して行い、生徒に理解を深めてもらう。2回実施し、1回は外部講師を招く。	・コロナウイルス感染症予防・対策のため外部講師を招く事が出来なかった。	B		(所見) ・全教職員と生徒がコロナウイルス感染症予防や対策の徹底を図り、学校あげて啓発活動を行ったので健康教育の充実にもなった。
		①-3 新型コロナウイルス感染症対策の強化を図り、感染者を出さないようにする。	・全教職員と生徒が共通理解を図り、予防の徹底を行い感染者を出さなかった。	A		
		②-1 夏季休業中の健康力アップ作戦を利用して良い食習慣や生活習慣の確立を図る。	・生徒全員が健康の大切さを意識した内容を実行し、効果的であった。	A		・良い食習慣や運動習慣が健康保持増進に大切であることの意識付けになった。 ・体育祭、部活動以外の学校活動では熱中症になる生徒はいなかった。
		②-2 外部講師を招いて（食生活が健康増進に大切との内容の）講習会を1回実施する。熱中症予防について球技大会・体育祭を通して啓発活動する。	・コロナウイルス感染症の影響で行事の縮小や中止により実施出来なかった。	B		
		③-1 避難訓練を各学期1回以上	・1学期に2回、2学期			・避難方法を確認できた。

る。

④ 安全教育を徹底して事故防止に努める。

実施する。	に3回実施した。	B
③-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上とする。	・生徒・保護者の「おおよそあてはまる」以上の割合が78.5%であった。	B
③-3 電気・水道使用量を昨年度より5%削減させることをめざす。	・HRや集会などで呼びかけ、日々の電気・水道量の削減に努めた。	B
④ 交通事故防止に努め重大事故発生数は年間0件をめざす。	・自転車および自動車との接触事故が数件発生した。自己内容は、いずれも軽微な事故であった。	B
活動計画	活動計画の実施状況	
①-1 「ほけんだより」を発行し、感染症や食中毒への予防意識を高めるなど、健康教育を推進する。	・コロナウイルス感染症予防対策を徹底したので感染症や食中毒の発症もなく、健康教育の充実に繋がった。	
①-2 保健委員がこまめに手洗い用石けんやアルコール消毒液の補充に努める。保健委員会が中心となり富東祭での保健展を充実させる。	・今まで以上に手洗い、うがい、アルコール消毒の徹底が出来た。	
①-3 新型コロナウイルス感染症の予防の徹底を図り感染者を出さないようにする。	・三密を避け、毎日予防徹底の啓発を行い、今のところ感染者は出ていない。	
②-1 生活習慣病予防についての課題やテーマに統一させて健康力アップ作戦を実施する。	・全員が高いレベルの作戦を立てて実施出来た。	
②-2 体育祭や球技大会を利用して、熱中症予防や食事と健康について専門家に講演を依頼する。	・行事の縮小や中止により実施しなかった。	
③-1 地震や津波に対する備えや対策について学び、自助と共助の精神を養う。生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。	・コロナ禍の中、密になることを極力避けながらの訓練であった。それでも何度も行うことで全校生徒の防災意識を高めることができた。	
③-2 毎日の清掃活動を「5分前」とりかかる姿勢を身につけ、校内の環境美化に取り組む。ゴミ削減のため、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極	・清掃「5分前」の放送は、環境整備委員より毎日実施できた。また、分別を促すポスター等により校内外の美化に取り組み、ゴミ削減に努めた。	

・ごみゼロ運動を環境HR活動として位置づけ、積極的に清掃活動に取り組むことができた。  
・電気・水は限りある資源ということ意識させ、削減に努めた。

・本校生徒は自他の命を大切にする気持が非常に強く、交通ルールやマナーを守ろうとする姿勢がある。

・災害時に生徒が適切に行動できるような訓練を実施し、防災意識の向上を図った。

・清掃は時間を守り各学年、積極的に取り組むことができた。ごみの分別は正しくできていないところもあつ

環境美化に率先して取り組む。

○節電・節水のために確かな行動ができるようにする。

・本年度発生した事故は、すべて自転車が関係したものである。自転車事故は、被害者にも加害者にもなり得るとの認識を忘れず指導を継続したい。また、時間に余裕をもって通学するよう訴えていきたい。

○地域との連携をはかり、防災リーダーとして活動できる生徒の育成をめざす。

○ごみの分別を徹底し、環境美化に率先して取り組む。



		<p>的に行う。</p> <p>③-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。</p> <p>④ 交通マナー、事故防止について集会やHRで指導を行う。</p>	<p>た。</p> <p>・HRや集会などで節電・節水を呼びかけ、削減に努めた。</p> <p>・学期末には生徒指導課長が全校生徒に対して「命の大切さ」を訴えた。HRでも適宜、担任が注意喚起を行った。各学期1回の街頭通学指導を通して交通マナーに対する意識の向上を図った。</p>	<p>た。</p> <p>・今夏はコロナのこともあり、換気を徹底したため、例年にもまして電気が増えた。その中でも注意喚起し削減に努めた。</p>	<p>○節電・節水のために確かな行動ができるようにする。</p>
<p>[7] 家庭・地域社会との連携による「開かれた学校づくり」の推進</p>	<p>①年間計画・学校行事等の情報をホームページで発信する等、積極的な情報発信を行う。</p> <p>②PTA・同窓会・地域社会と連携して一体となって生徒を育む環境をつくる。</p> <p>③学校評価制度や学校評議員制度の活用等で学校の活性化に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 ホームページのアクセス数が年間15万件以上になるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①-1 ホームページのアクセス数は、7,171,645件(4/1～1/18)だった。目標を達成した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	<p>ホームページの作成や編集を生徒にも協力させても面白いのではないかなと思う。 当然、情報教育の一環ともなると考える。</p> <p>コロナ禍で多くの行事が中止になってしまったが、ホームページへのアクセス数が増加したのは、コロナ禍だからこその対応で良かったと思う。</p> <p>コロナ禍という異状時において、当該年度の教育目標や評価尺度は柔軟に変更し、その上で、取組の成果を外部に発信することが大切なのではないかと思う。</p> <p>○新型コロナウイルスが収束しない限りは、教育活動の工夫した実施、場合によっては規模縮小や中止を余儀なくされる状況にある。安心・安全な学校生活となるよう今後も文書やHPで御家庭に情報発信し御協力いただきながら、できる限り充実した教育活動となるようにしていきたい。</p> <p>○就職や進学に関する現状や試験の情報などを適切に提供することで、家庭において保護者と生徒がともに進路について考える機会を増やしていきたい。</p>
		<p>①-2 ホームページの更新回数は、年間300回以上とする。</p>	<p>①-2 ホームページの更新回数は、360回だった。目標を達成した。</p>	<p>A</p>	
		<p>②-1 PTA総会の保護者参加率50%以上、文化祭一般公開日の来校者数1,000名以上をめざす。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染予防対策のため、PTA総会を中止、文化祭は非公開とした。</p>	<p>B</p>	
		<p>②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率60%以上をめざす。</p>	<p>・1年生は57%、2年生は67%、3年生は57%であった。</p>	<p>B</p>	
		<p>②-3 地域との合同避難訓練の参加者(保護者及び地域の方々)の数を合計100名以上にする。</p>	<p>・本年は、地域との合同避難訓練はおこなわなかった。</p>	<p>C</p>	
		<p>③ 学校評議委員会を年間1回以上開催し、意見を伺う。</p>	<p>・今年度は感染防止のために、2月に文書会議を実施して意見を伺った。</p>	<p>B</p>	
<p>活動計画</p> <p>①-1 適宜、必要な情報発信を行う。生徒や保護者には、定期的にHPを閲覧するよう呼びかける。</p> <p>①-2 学校行事や部活動実施後に更新する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・更新回数、アクセス数とも目標を達成することができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染予防に関する対応した学校行事の変更や、部活動大会実施後の結果報告などが、速やかに更新されていた。</p>	<p>・HP更新回数、ホームページアクセス数ともに、目標値を達成することができた。今年度は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言中の学校からの連絡をHPで行ったため、感染状況に応じた変更をHPで確認するよう促していたため、アクセス回数が増えた。</p> <p>・PTA総会は中止としたが、議案配布後、御意見を承る期間を設け、開催時と変わらない双方向のコミュニケーションに努めた。</p> <p>・文化祭は非公開としたため、地域の方との交流は出来なかったが、校内において感染者を出さずに教育活動が継続できた。</p> <p>・本年度はコロナの影響で保護者対象進路説明会の出席率が昨年より下がった学年がある。それでも参加率が</p>			

		<p>②-1 P T A 役員会や P T A 総会で、保護者や地域の方からの教育支援があれば申し出て欲しい旨をお願いし、時に、適切な教育支援を受けながら、生徒・地域社会・学校が一体となって、充実した教育活動が行えるよう努める。</p>	<p>②-2 新型コロナウイルス感染予防による学校行事変更への御理解、家庭での取り組み事項の協力依頼などを文書やHPなどで行ったが、御理解・御協力頂き、安心・安全に教育活動を行うことができた。「服のチカラプロジェクト」への不要な子ども服提供呼びかけを、校内だけで行ったところ多くの衣服を御提供いただいた。エンカル推進の取り組みは、生徒の御家庭の御協力により推進出来た。</p>	<p>上がるよう広報も含め保護者に興味を持ってもらえる内容を検討していきたい。</p>	<p>家庭との連絡・連繋は極めて大切だと思うが、生徒個人との信頼関係が、やはり最も大切だと思う。</p> <p>なかなか簡単ではない場合もあると思うが、努力してもらいたい。</p>	<p>○地域との連携をはかり、防災リーダーとして活動できる生徒の育成をめざす。</p>
		<p>②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。</p>	<p>・必要な進路情報が適切に学校から提供されていると答えた保護者は91.3%であった。</p>			
		<p>②-3 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域住民との連携を図り、共助の精神を養う。</p>	<p>・コロナ禍により、制限があり合同避難訓練はおこなわなかった。</p>			
		<p>③ 学校評価アンケート結果を2学期末に実施し、その結果をもとに3学期に学校評議委員会を開催する。</p>	<p>・学校評価アンケートを12月に実施した。1月末にその結果を学校評議委員に送付した。密を避けるため、今回の評議委員会は文書会議とした。</p>			
<p>[ 8 ] 伝統を受け継ぐ さわやかな校風の樹立</p>	<p>① 文武両道を遂行し、礼儀正しく「さわやかで活力あふれる富東」の精神を高める。</p> <p>② 部活動を通じて、強固な意志を持ってたくましく生きる精神力と心豊かな人間性を育成する。</p> <p>③ 地域社会の期待に応えとともに清潔な環境の中で、心のふれあう校風を樹立する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 学校評価アンケートで「私は友だちや先生方にきちんとあいさつができています」について「おおよそ当てはまる」以上が80%以上になる。</p> <p>② 部活動に入部していない生徒を6%以下にする。四国大会以上の大会への出場部数を10部以上にする。</p> <p>③ 学校周辺や避難経路の清掃を各クラスで年2回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>① 生徒会役員による朝のあいさつ運動を定期的に行う。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・自己評価が当てはまる生徒は、93.0%と大きく目標を達成した。 A</p> <p>・5月末の学校再開後スタートした部活動であったが、兼部する生徒もいて入部率は100%を超えた。大会はほとんどが中止となった。 C</p> <p>・HR活動でゴミゼロ運動の日を設定し、学校周辺の校外清掃活動に取り組んだ。 A</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・毎月1回、生活委員（生徒会活動）による朝の挨拶運</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) ・校内では挨拶ができる生徒が多く活力が感じられる。一方、挨拶ができない生徒も一部見受けられる。</p>	<p>部活動を通じて、競技成績の向上だけでなく、人間教育の場としての性格を強めて行ってほしい。</p>	<p>○通学時の挨拶の声が小さいという印象がある。形式的なものではなく心のこもった挨拶が大切であるということを様々な場面で全教員が伝えていきたい。「挨拶で心ふれ合う富東」のキャッチフレーズに負けない、さわやかな挨拶ができる生徒を育てていきたい。</p> <p>○ゴミゼロ運動を環境HR活動として位置づけ、次年度も継続して実施していきたい。</p>

		<p>動を実施した。</p> <p>② 中高の部活動の交流を活性化させることで、協同の精神を育成する。部活動紹介等を充実させることで入部率を上げる。</p> <p>③ 防災クラブや整備委員が中心となって清掃を実施し、地域の美化と安全に貢献する。</p>	<p>・部活動が自由に行えない、少人数・短時間での活動に加え、部活動紹介も中止となり、交流がほとんどできなかった。</p> <p>・ごみゼロ運動と連携し、地域の清掃活動を行った。</p>			○地域との連携をはかり、エコを発信していく。	
[9] 教職員の資質向上	①教職員が自発的・積極的に校内外の研修に参加し、自己研鑽に励むことによって、生徒が意欲的に取り組む授業を創造するとともに、確かな学力を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		○電子黒板の活用が進んだが、対面授業の制限で、授業改善は不十分であったと思われる。次年度はGIGAスクールにも対応できるように、さらに校内外の研修の機会を増やし奨励していきたい。	
		①-1 相互授業参観を年2回以上、研究授業及び授業研究会を年2回以上実施する。	・相互参観授業は1,2学期に各1回実施した。研究授業及び授業研究会は実施できなかった。	C			(評定) C
		①-2 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」、「授業に様々な工夫をしている」に対して「おおよそ当てはまる」と答えた生徒がそれぞれ80%以上とする。	・教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」について、おおよそ当てはまる以上とした生徒が89%、「授業に様々な工夫をしている」が86%であった。	A			(所見) ・環境整備が進み、慣れもあって、電子黒板活用は進んだ。対面授業の制限で授業改善に十分取り組むことができなかった。
		①-3 外部講師による職員研修会を年間3回以上実施する。	・外部講師による職員研修会は年間2回(情報セキュリティ、GIGAスクール)であった。	C			
		①-4 校外における研修(指導力向上研修等)にのべ50名以上参加する。	・進路関係及び教科指導に関する説明会や研修会の参加はのべ32名であった。	C			
	活動計画	活動計画の実施状況					
	①-1 授業研究や相互参観授業を効果的に実施し、授業力向上に活かす。	・研究授業や授業研究会はできなかった。			・本年度はコロナの影響で、説明会や研修会の実施が少なくなった。特に、教科指導に関する研修については県外ということもできなかった。	○本年度から実施される大学入学共通テストや多様化する入試制度の結果を踏まえ、次年度に活かせるよう教科指導法や進路関係の研修を進めていきたい。	
	①-2 教材研究にあてる時間を確保し、アクティブラーニングやICTの活用を積極的に取り入れる。	・いつ休校になるかわからなかったため、授業進度を進めることに重点が置かれた。実験・実習・演奏・話し合い活動が制限されたため、「主体的・対話的で深い学び」まで十分にできなかった。定時制教室や特別教室にもプロジェクターが入り、ICTの活用は進んだ。					
	①-3 教育相談、学力向上等に関	・GIGAスクールのための研修を実施した。					

	する研修会を実施する。			
	①-4 校外研修を教職員に広報し、研修を勧める。	・校外研修はほとんどがオンラインになった。参加者はあまり増えなかった。		